

(座談会) 「幼児教育と教材」

— 『幼児の教育』第六十四巻第五号

(一九六五年) から —

津守真(略) 最近、教材というものがいかに幼児教育にとって大切であるかを痛感している次第なのです。(略) 教材とか教具とかを投入して、子どもがそれで遊んでゆくうちに社会性が伸びてゆくというような、そういうものが必要です。これは社会性だけに限らず、知的な面でも、また何にでも同じようなことが言えると思います。それも先生自身はかなり考えて作って、子ども自身にも考えて作らせることが必要になってきていると思うのです。(略) 少しでも工夫して先生が作れば、子どもの方にも工夫して使おうという意欲がわいてくるものです。(略)

砂場三郎(略) 私は子どもの製作というものを頭に置いて、今まで何回か書いてきたのですが、半分当たっているような、半分はずれているような

気がするのです。

林健造 今まで砂場先生はどういうものを書いて下さったのですか。

砂場 石膏とかセメントとか粘土について書きました。(略)

林(略) 子どもは物を媒介にして伸びていきますから、先生方は何を与えたら良いか非常に困るらしいですね。(略)

佐藤諒(略) にぎりばさみを使っている子どもがたくさんいるんです。私はわざわざ裁ちばさみを持って来るように言ったのですけれどね。(略)

砂場(略) 左利き用のはさみが全く無いというのは不便ですね。左利きの子もだっただって同じようにはさみを使ったりしなければならぬのですから。林 なるほど左利きのはさみというのはおもしろい。野球のグローブだっただって左利き用があるんですからね。(略)

津守 近ごろ外国などでダンボールの製作が盛ん

になって来ましたが、そうすると、はさみなども
またちがつてくるでしょうね。

砂場 たしかにダンボールなどもって幼稚園で使
うと良いですね。(略)

佐藤 今、ダンボールに色をつけたものをやれと
言っているんです。表が赤で裏が黄色とか……(略)
現在は物を作ってから塗っているわけですが、そ
れとまたちがつたものができると思うんです。(略)

〔座談会〕「幼稚園における製作教材」

—『幼児の教育』第六十四卷第十二号

(一九六五年) から—

津守 (略) 今日は、先生方に少しお話しいただく
と一緒に、現場の方々にもお集まりいただいで、
もう少しどういふようなことが知りたいかといふ
そんな注文だの、それから、いろいろなアイディ
アがここにてでていますから、それを今度は実際に
どう生かすことができるかなど話していただきました

いと考えています。(略)

津守 佐藤先生の紙の話は、ずい分回を重ねて書
いていただいたのですが、紙について、こんなに
系統的に書いたものはあるのですか。

佐藤 紙だけについてまとまったものは、日本に
は無いですね。外国にはあるんですが。

A あの、のし紙の上等なのがございますが、あ
れは和紙の一種ですね。あれを私よく子どもたち
に使わせます。親にとっておかせましてね。(略)

砂場 ええ、あれはとても丈夫だし柔軟性があ
りますしね。

A ええ、あれで長靴を作った時はおもしろか
つたですよ。ちょっとはいても破けませんでしよ。

(略) 子ども用のはさみでもよく切れましますね。
だから先生、高いっていても、そこら辺にころ
がってるのを探すとあるんですね。(略) 佐藤先生
の貼り合わせ方なんていうのを、よく参考にさせ
ていただいでいふ智恵をいただきました。(略)
そしてあれはどういふのか、つばきをつけた方が
破けないって子どもたちがいうんですよ(笑)。

C 私、先生が接着剤のことを書いて下さってよかったです。今、何でもセロテープに頼る傾向がありますでしょ。子どもたちも、のりで二、三回やってつかないですぐ「セロテープは？」ってくるんです。だから、そういう子どもたちのずるさと、今の子どもたちに努力するっていうことを教えないような不幸になりがちになっていると、いつも思うのです。そうかといって、「今、セロテープないわよ」っていうと「じゃあしたうちから持ってくるから、今日はこれでおしまいにしとくね」なんてやられてしまうわけなんです(笑)。

林 あのね(略)技術などを考える前に、もっともっと大事なことがあるっていうことを前提にしてもっていなければなりませんね。子どもを見つめる心とか愛情とかそういうものが基本にあってこそで、これがなくて技術ばかりを追っていたら、やっぱりそれは技術主義になってしまふ。(略)それともうひとつは、幼稚園の先生は特にアイディアマンであることが必要ですね。アイディアマン

だっていうことは、ひとつは、リラックスされた精神が大事だっていうことでしょうね。(略)

それから動くことや何か、佐藤先生からもお話があったけれど、動くことの前にね、動いているように感じる心があるんだなあ、子どもには(同意)。このところを一足飛びにして、動くにはどうしたらいいでしょうって行かないことだと思えますね。(略)

正月に私の子どもとたこをそばしたんだが、(略)とんだなと思った途端にひっかかっちゃったんだ。それがくやくやくしてしょうがなくて、僕のアトリエにきて、何か作っているんです。(略)そしてこれとばしてちょうだいっていうわけですよ。これとばせていわれてもねえ(笑)。佐藤先生に行く前の世界があるわけですね。これがとぶと思ってるんだ。(略)こういう子どもたちの世界を大事にしたいだけで、その上に佐藤先生、砂場先生のやり方っていうのが、ついてくると思うんです。それをいろいろこういう講座などでおぼえたことをすぐにだしちゃいけないんで、ちゃんと腹の中に

入れておいて、いつかゆっくりだす時があるんだから、その時の為にこういう講座を活用なさる方がいい(略)。

砂場(略) 子どもは案外木でもブリキでもかまわないですね。それをこっちが敬遠しちゃうものだから、紙とか粘土とかだけが幼稚園の教材だと決めてしまうようなことになって……(略)

津守(略) たしかに紙や粘土は扱い易いけれど、もっと木や釘を使うっていうことは、僕は幼稚園でいいことだと思いますね。スケールが大きくなりやすいね。

A(略) 子どもってみんなかくれたがりですでしょ。机を積みめば必ずもぐり込むし、だからそういうかくれ家のアイディアっていうの、ほしいと思いますねえ。

C ダンボールの大きいのか、木だとかでね。

津守(略) 戸外の広びろしたところの木陰なんか、自分たちで小屋みたいなものを作ったらおも

しろかろうと思ったんだけど、もし釘がとびだしていてそれに頭をぶつけるなんてことになったらこまるしね。

A(略) けがをさせたらこわいんですよ。親もそういうことには非常に臆病ですからね。

砂場 僕なんか、そういうことが好きだったせいか、子どもの時から傷の絶え間がなかったですよ。佐藤 でもけがしてだんだんよくなるんだよね。

津守 こういうけがは、自動車事故とか水死とかとは違うものね。今、安全教育っていうのが盛んですが、それは結局交通問題が一番大きいでしょ、それと洗濯機や何かの機械ね。(略) 今、交通事故がふえたからって、木工などの事故もふえるわけではないし。

佐藤 実際に親になって子どもを育ててみるとね、僕はなるべくそういうこといわないようになろうと思うのですが、ダメっていうこととアブナイっていうこの二つのことがらよくありますね。気がついてハッとすることがよくあるんですよ。(略)